令和６年度　市長のタウンミーティング

日　時　９月７日（土）午前１０時～１１時１０分
会　場　子ども子育て総合支援センター　キッズポートいみず
出席者　市長、福祉保健部長、福祉保健部参事、企画管理部次長、
　　子育て支援課長、こども福祉課長、保健センター所長、
　　防災・資産管理課長、防災危機管理班長、未来創造課長（司会）
参加者　４２名

○　質疑応答

発言者１
○　保育料無償化について、第１子も所得制限無しの支援があればいいと思う。射水市で実現することは可能か。

回答【市長】
○　県内では、魚津市・氷見市が第１子・第２子に関係なく、１歳以上は保育料無償としている。事例があることは認識しているが、予算の確保と市民の皆さんのニーズ把握も必要である。現状では、県知事選挙の結果によって、第２子の保育料無償について県から案内があると思う。その取組が所得制限を設けて実施するかなどといった詳細は明らかになっていないため、注視していきたい。
　保育料無償は手段として大事ではあるが、目的はあくまでも子育てを頑張っている子育て世帯の皆さんを少しでも応援することである。予算がかかるため、全てを実現することは難しいかもしれないが、できる限り今後も進めていきたい。

発言者１
○　射水市の子育て施策について説明を聞いたのは初めてだった。以前、在住していた埼玉県と比較し、子育てする人への支援はたくさんあると感じたが、子育て支援センターの講座など子どもたちへの支援が少ないように思えた。埼玉で利用していた保育園では、食育に力を入れており、手作りおやつ・地産地消・オーガニックのものを提供し、３食のうち１食が変わることで、子どもの発達に良い影響を与えていた。市販のお菓子では味気なく寂しいので、市で取り組んでいくことがあれば教えてほしい。

回答【市長】

○　園では、地元の食材を使用した食事やおやつはこれまでも取り組んできているが、引き続き、子どもたちにとって良い食事への取組を勉強していきたいと思う。議会でもオーガニック食材の使用について指摘もいただいていることから、検討していければと思う。

発言者２

○　新春対談の際に、「こどもまんなか」ということでお話があったが、子どもたちの意見を吸い上げて、行政に活かすような取組は始まっているか。

回答【市長】

○　新しく実施しているわけではないが、今後新しい計画を作成していく際に、大人目線から子どもたちのことを考えるというものばかりでなく、子どもたちの意見や要求を聞き、それを計画の中に入れていくのが、「こどもまんなか社会」の一つの取組だと思う。タイミングや方法については、今後考えていければと思う。

発言者３

○　県内の中でも手厚い支援で、射水市は子育てしやすい環境であると認識している。近年は少子化が問題となっているが、その原因は経済面だけではなく、長時間労働にもあると思う。子どもを出産して育てるとしても、今の夫婦の長時間労働の状況では、なかなか子育てがうまくいかないという方もいらっしゃるのではないか。

　公務員は勤務時間が長く、残業・土日出勤もある。特に、震災以降は災害関連部署の勤務時間が長くなっているのではないか。また、市民ニーズの拡大によって仕事量も肥大化し、人手不足である。子どもを育てる側の支援にも繋がるため、公務員の長時間労働と仕事量をどう改善していくか教えていただきたい。

回答【市長】

○　これまでも職員の長時間労働は課題になっており、定期的に確認している。特定の職員が多く残業している場合、部署内で業務量の見直しを図っている。外部委員からは、有休消化が少ないとも指摘され、有休取得がしやすい雰囲気にしていかなければと思っている。一方、市民ニーズが多様化してきている中で、行政に求められるものも非常に多様化してきており、業務の難しさもある。

ＡＩ・デジタル技術を入れて効率化を図ったり、外部委託できるものは外部に依頼したりして、職員がマンパワーで対応しなければいけないものや新しい企画を考えることに注力できるよう業務の見直しをしていきたい。また、職員の業務量調査を行いながら、オートメーション化も念頭に置いて働き方改革を進めていきたい。

発言者３

○　私は精神科領域の者だが、射水市民病院で子どもの心の外来があることを初めて知った。令和８年度から富山県リハビリテーション病院で心理治療施設をつくるが、診断や治療の必要な子どもが増えてきていることから、利用したいときに利用できないものになるのではないかと思う。療育に関して、県だけではなく、自治体でも取り組めるため、療育に力を入れようという考えはあるか。

回答【市長】

○　発達の違いにより、園や学校に居づらいと感じるお子さんが増えているのか、認識が高くなってきたことによって、診療のニーズが高まっているのかは不明だが、多くの方が診察を希望している状況だと思う。子どもの特徴に合わせて対応することで、日常生活の中で居づらさを感じず過ごせる子もいると思う。市側も研修などで理解を深め、子どもに合わせた対応に努めているが、専門家ではないため至らないところもあると思う。

　ニーズが非常に高いことは理解しており、子どもの心の外来について、もともとは射水市のお子さんは富山県リハビリテーション病院や高岡市きずな子ども発達支援センターで診療をお願いするケースが増えてきていた中で、なんとか市内でも対応できないかということで市民病院でもサテライト的に始まったが、初診が難しいぐらいになってきている。相談体制の充実、子どもたちへのサポート、親御さんも含めての理解・認識を高めながら、子どもが居づらさを感じにくい社会・環境をつくっていければと思う。具体的なスケジュールまでは決まっていないが、新しい計画に盛り込みながら取り組んでいければと思う。

発言者３

○　富山県では、持ち家の方が多いが、子育て世帯が賃貸住宅を選ぼうとしたときに、選べる物件が少ないのが富山県の現状だと思う。ニーズを拾いあげて、選択肢を増やすような住環境を作ることを考えているか。

回答【市長】

○　富山県は全国的に持ち家率が高い。昔から結婚して家を建てて一人前みたいな感覚がある。住まいに対してのニーズは多様化しており、決して持ち家だけではなく、マンションやアパートのニーズも高くなってきていると思っている。整備に関しては民間ということもあり、ビジネスベースとしてどこまで考えられているのか分からないが、空き家が増えてきているため、使用できる空き家を提供し、ライフイベントに応じて住み替えるなど、住居のストックをうまく生かしていけるような仕組みが作れればいいと思う。現在、空き家トータルサポート窓口も設置する準備を進めており、ニーズに繋げていければと思う。

発言者４

○　発達障害児を育てており、県内のなかでも射水市は診断を受けた後のサポートが手厚い実感がある。しかし、そのことを把握するまでは不安だった。子育て支援センターで相談応対、市内独自の言語療法の個別面談、作業療法士からのサポート、保育園入園後の保健師や言語聴覚士による定期的な相談などがあり、今はトラブルなく小学校に通学できた。射水市はいろんな子育て支援があり、温かく見守るまちであることをPRするとともに、今後も温かいまちづくりを進めていただきたい。

回答【市長】

○　市としても、困ったときの相談場所や利用場所が分かるように、これからも発信の仕方を工夫していかなければならないと思う。

発言者５

○　全国で遊具による死亡事故が発生し、保育園や小学校の遊具が使用できない状況が続いているが、新しいものを導入するなど改善されることはあるのか。

回答【市長】

○　老朽化により、危ない遊具があることは認識している。基本的に、老朽化したものや危険なものは、利用が無い場所であれば撤去し、利用があるものは更新をしていくという考え方である。予算を確保し、順次更新することになる。

　最近は、障がいの有無にかかわらずみんなで遊べるインクルーシブ遊具といった、子どもたちが安全に遊べるよう配慮されたものも出てきている。更新の

際にはそれも念頭に置きたい。学校遊具は、子どもたちの利用が多いため、点検を優先的にやっていきたい。

発言者５

○　アイタウンの本開発公園や大島中央公園など大きい公園は素晴らしいが、小さい公園の遊具はボロボロである。改善する予定はあるか。

回答【市長】

○　公園施設の長寿命化の計画を立てて順番に更新している。中には市で設置したのではなく、地元自治会で設置したものもある可能性がある。自治会で更新したいという話があれば、補助メニューや宝くじ助成金の利用など協議はできる。市の遊具に関しては、できる限り直すべきものは直していきたい。

発言者４

○　大島絵本館でオーガニック給食の映画が上映される。石川県や富山県内の自治体でオーガニック給食を導入しているところもある。子どもたちにやさしい射水市とするために、射水市でも実施してほしい。

回答【市長】

○　オーガニック給食は、子どもたちの体にやさしく、食育にも繋がるもので、非常に重要な取組だと思う。オーガニックで生産されたものを学校給食の食材として仕入れるとなると、まだ量が少なく、地元での生産体制が整っていない現実もあるため、すぐに導入するというのはハードルが高い。市議会でも同様の質問が出てきており、必要性を強く感じている。農業界ともニーズがあることを話し、市でも導入を図っていければと思う。